

七四

魚屋弥兵衛が八間道でうなぎをつかまれる

うおややへえ

魚屋弥兵衛という人は前から相撲が好きで、ずいぶん強く勇ましい性格の人でした。

あるとき、遠くに出かけていて帰りが夜中になりました。途中、八

はち

間道けんみちを通りかかると何者かが弥兵衛のうなぎをつかんで持ち上げます。

「これは。」

と言って見上げると、そのつかんだ手がはなれました。

それから少し行くとまた何者かがうなぎをつかみます。そして今度は六尺《約一八〇cm》ほど持ち上げられました。あつ、と思つてつかんだその手をたたくと、簡単に手を払いのけることができ、下へ落ちたといひます。

その後、その話を他の人にも話して不思議がったということです。

